

緑育会通信 第7号

緑育会事務局
(プロジェクト推進室)
Tel : 03(3961)0084
Fax : 03(3962)7135
E-mail :
ryokuiku@tokyo-kasei.ac.jp

129年の幸せ

新井 哲男 (東京家政大学 人文学部長)



先日、地域連携協力推進センター主催による元 NHK アナウンサー池上彰さんの講演会が狭山校舎であった。たくさんの方が来場され、遠隔装置を用いて別室で同時中継したが、それでも入りきれない人がかなりいた。

平成 21 年度から、文学部が人文学部へと名称変更し、心理教育学科が心理カウンセリング学科と教育福祉学科へ発展改組して、学生はすべて板橋校舎での授業となった。その結果、狭山校舎では、地域連携協力推進センターと人間文化研究所の活動が中心になっていたが、昔と変らぬ、地域の人たちに対する職員の方々の温かい対応を目にして、脱帽した。

講演は、世界各国で発行されている世界地図を 20 ほど掲げて、世界地図にみられる政治をわかりやすく解説するものだった。英国は世界地図の左端に位置し、米国は右端にあると思込んでいる我々の頭には、英国を中心に据えたときのヨーロッパとアメリカの近さは、新鮮である。英国から見れば、日本は、地図の右端、極めて遠い東の果ての極東地域 (Far East) に存在し、イラン、イラクあたりは中間あたりの中近東 (Middle East) にある。では、英国から見て、東 (East) はどこかといえば、かつて英国の植民地であったインドあたりであるという具合で、周知のこととはいえ、地図を示しながらの説明は説得力がある。パレスチナ問題にも触れ、イランから見たイスラエルは、地図上いかに描かれているか。その逆はどうか。また、北朝鮮 (朝鮮民主主義人民共和国) の地図から見た日本はいかに? など、身近な問題を掘り起こしてくれた。最後は、南半球に位置するオーストラリアの地図を予想していたが、その通り、北と南が逆の地図が示されたが、本当の最後は、

宇宙からの地球の映像だった。国境のない映像である。講演後の質疑応答で、宇宙から見た夜の地球はどうなんでしょうか? という質問が出た。地球上はほとんど暗い、ただ日本は、くっきりとその輪郭が見えるそうである。偶然の質問とは言え、環境問題への提言がなされた。聴衆の中からは、講演者への感謝の言葉とともに、このような機会を与えてくれた本学への感謝の言葉もあった。皆満足して帰った。至福のひとつである。講師の池上彰さんも、満足そうだった。

私は、かねて、幸せとは何かと考えたとき、その 1 つに自分の頭が耕されたと感じた時と、他の人が自分の行為を素直に喜んでくれていると感じた時があると考えている。この 1 年間、いろいろな講演を聞く機会があった。後援会、緑窓会、大学の共催で各地で開かれた地区懇談会、緑苑祭での各学科主催の講演やシンポジウム等。そのたびに感動をいただき、幸せを手にした。本学では、まだまだたくさん講演会や催し物を行っている。これだけのことができるのは、明治 14 年 (1881 年) に創立され、129 年の長い歴史をもつ本学のゆとりである。昨年 9 月には、隣地に新校舎も建設され、十条門が設置された。入ると正面に、のびやかな乙女の像が掲げられ、その台座には「自主自律」の建学の精神と、「愛情・勤勉・聡明」の生活信条が刻まれている。

本学開学時の学長青木誠四郎先生は、「お互いが愛情をもって結び、また愛情の豊かな人間になることを念願している」(青木誠四郎著『若い女性(ひと)』信濃教育会出版部、昭和 41 年、56 頁) と述べ、「人が孤独を感じることが愛ということの起こりではないかと思う。」(同上、64 頁) とも述べている。

これらの講演を聞き、これらの書に目を向けるとき、129 年の歴史を感じ、その中に生きる喜びと幸せを感じる。

【目次】	
129年の幸せ 新井 哲男 (東京家政大学 人文学部長)	1
欠けた 5 つの輪は、3 本の矢とならず 東京家政大学学長 木元幸一	2
平成 22 年度教員免許更新講習の実施について 教員免許更新講習実施委員長 菊入三樹夫教授	2
第 2 回 (平成 22 年度) 教員免許状更新講習の開催について	3
お知らせ 第 18 回 (平成 22 年度) 教員対象講習会	3
教材情報 造形表現学科講師 早瀬郁恵	4
アドバイスコーナー 服飾美術科准教授 雲田直子	5
報告 松井正子名誉教授よりご寄付	5
教育時流 教員養成教育推進室室長 青木幸子教授	6

欠けた 5 つの輪は、3 本の矢とならず

東京家政大学学長 木元幸一

もう報道等でもご存知の通り 5 女子大学のメンバーである昭和女子大学から提出された教員の履歴書に事実詐称があり、昭和女子大学に対して今後 2 年間の新規設置認可申請を禁止する旨の処分が下されました。その他のカリキュラム内容や 4 大学の準備状況については全て合格とのご返事を文部科学省から頂いたことを考えると誠に残念至極で、今頃は設置認可があり、次年度開設に向けて大きな希望が膨らんでいるはずのものでした。その後、大妻女子大学が学内事情で脱落したため、3 大学で進めるべく、10 月後半になって 3 大学の学長が集まり検討することとなりました。ところがその席で、中心メンバーである日本女子大学が、民主党政権となり教育改革の方向性が見えにくく、また学内事情もあり、22 年度申請・23 年度開設を見送りたいとの希望が出されました。実践女子大学と本学は、一つの女子大学の不幸事により、この素晴らしい意義のある構想全体が駄目になってしまうという最悪の事態を避けるべく努力いたしましたが残念ながら叶わぬこととなり、この構想は、民主党の教育改革の推移を見守りながら改めて見直すこととなりました。何ともいうべき言葉も無く、実践女子大学の湯浅学長とは、ただ嘆くばかりでした。

心待ちしていただいた方々には、力及ばずとの結果となり誠に申しわけなくお詫び致します。しかしながら、今でも教育界における女子教員の貢献を支援するためには、全く色あせることなく最大最良の構想であったと思っております。この中で主張されている本質的意義は、現状の教育の中で継承し、実施していかなければならず、今まで培ってきた本学の教員養成と教育界への貢献を、今後も維持していかなければなりません。その意味で緑育会という教員養成と現職教員を支援する会は、益々重要になってきます。

緑育会と大学・学園は一枚岩となって力を合わせ、今後とも新しい時代の教員要請に添えていきたく、皆様には引き続きお力添えよろしくお願い申し上げます。

平成 22 年度教員免許更新講習の実施について

教員免許更新講習実施委員長 菊入三樹夫教授

昨年 8 月に実施しました平成 21 年度の教免更新講習については、はじめての実施ということで、どんな想定外の事態が発生するかも知れないという不安と緊張がかなりありましたが、幸いなことに概ね順調に実施が遂行されたものと評価して良いのではないかとホッと致しております。しかし月日の経つのは早いもので、もう次年度の更新講習の計画は進んでおります。

第 2 回目となる平成 22 年度の教免更新講習は、21 年度の受講者の皆さんに回答して頂いた受講者アンケートも参考に、受講者の皆さんがより快適に講習を受講し、講習の成果が上がるよう、関係者一同が心がけて取り組んで行きたいと思っています。

急遽ということもあり、21 年度の更新講習は外部の先生にも一部の科目を担当して頂きましたが、22 年度については講師陣の陣容も整い、本学の教員だけで実施できることになりました。

また開講科目につきましては、22 年度の講習では「社会・公民科の学習支援」は廃止し、「情報コミュニケーション技術基礎」と「同活用演習」は受講者のコンピュータ・スキルにバラツキが大変大きかったため、受講者をスキル別に 3 段階に再編成して、実施したいと計画しています。

「保育のリフレッシュとスキル・アップ講座」については、幼稚園の先生方の年齢層が大変若く、そもそも更新講習の対象者が少人数であり、受講者数も少ないことはもとより想定致しておりますが、家政大ならではの分野でもあり、昨年通り実施したいと考えております。(ただ今検討中)

「特別支援実践講座」についても、「保育の……」同様に、特別支援教育を重視する本学の姿勢からも、何らかの形でこれの分野をカバーすることにする予定です。今現在、科目内容とスケジュール等の調整に取り組んでいるところです。

「最新の英語科教育法」の理論と実践も同様に、開講時期の教員の手配など条件を整えば、狭山・板橋両キャンパスでの開講をめざしたいと考えています。

家政大らしさがより強調される「家庭科の授業作り」をはじめ、「小学校教諭実践講座」・「美術表現の実践」・「科学と人間生活」は、受講者の感想では大変ためになった、これからの授業にすぐ役立てたいと、大変評判が高かったため、講師陣一同お持てる蓄積を生かした講座を提供したいと張り切っております。

開講時期につきましては、諸般の事情もあり、8 月中旬の一週間を用いて実施することになりました。

さて皆様は、自公政権時代に発足したこの教免更新講習それ自体が、民主党中心の連立内閣に変わったことにより、今後どうなるのかということについて、多大の関心を寄せていられるものと思います。

民主党はかねてより、この制度を廃止したいとの意向ですから、ことに近々のうち講習対象年限に該当される方にとっては、重大な関心事だと思います。私どももこの件に関して情報を集めておりますが、与党も文科省も、まだ明確な方針を打ちだしておりません。

埼玉県教委の解説によりますと、もし今国会でこの更新講習を廃止するとの法案が可決成立したとしても、21・22 年度の 2 年間のうちに更新受講をしなければならぬ対象者がおりますので、22 年度の講習の実施は規定の事実です。

現時点では廃止法案を提出する動きはいっこうにありません。すると、これから急遽、廃止法案が提出・通過したとしても、23 年度からの更新講習該当者の中から廃止ということになり、23 年度については 22 年度に受講しなかった人が、23 年度に受講しないと教壇に立つ資格が失効することになりますので (法の下での平等の原則)、23 年度までは更新講習は存続することになります。このよ

教材情報

身近なものを使って「色」を染・め・る

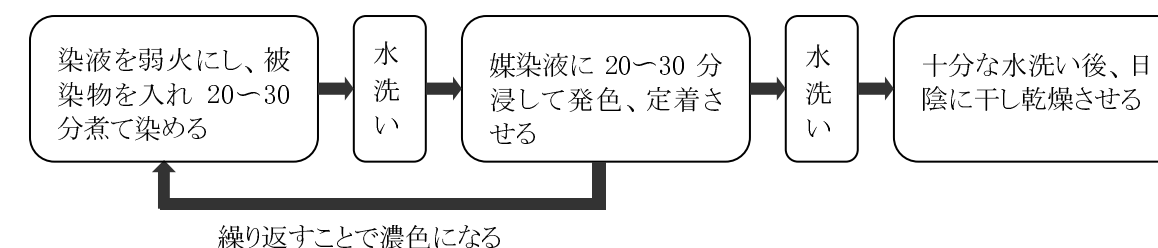
造形表現学科講師 早瀬郁恵

私たちの生活に密接に関わっている繊維製品は、さまざまな色に染められています。

染料には、天然染料と合成染料があります。色相の豊かさ・色彩の鮮やかさ・色の堅牢さ・再現性・使いやすさの点から、昨今 そのほとんどが合成染料によって染められており、染料と言えば、合成染料を指すまでになっています。ところが、近年 再び天然染料が評価されはじめました。この背景には、生活が豊かになり、効率性や利便性のみが優先されがちな現在、自然に親しみ、潤いを持つとする動きがあるのではないかと思います。今回は、野山にある植物あるいは家庭で見かける食材等、身近にある材料を使ってできる染色方法/媒染法を紹介します。基本的な染め方ですので、大概の材料に応用することができます。色の美しさを味わうことを通して、日々の生活に潤いを感じながら、自然を見る目も深くなればと思います。

媒染法とは・・・

染液に浸すだけでは染着できないため、媒染液につけて繊維と染料を結合させることにより、染着、発色させる技法です。この技法では、同じ染料を使用しても、媒染剤の種類によって違う色に染めることができます。



染料

<種類>

【身近な植物】セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、ヨモギ、ドングリ、クリ(葉やイガ)等

【台所にある食材】玉葱(外皮)、落花生(殻や薄皮)、葡萄(外皮)、黒豆・小豆(茹汁)、茄子(皮)、緑茶、紅茶、コーヒー豆、梅干の汁等 ※葡萄の皮や緑茶、コーヒー豆の出し殻等の捨てる部分を使って染める。材料は、冷凍して溜めておくといよい。

<使用量>

被染物(染める素材)の重さと同量、干してあるものは半分の量を目安とする。



染料:葡萄(外皮)



染料:梅干の汁

媒染剤

媒染剤には、アルミ媒染、アルカリ媒染、酸媒染、鉄媒染、この他にも用途に応じた媒染剤がある。安全面を考え、環境にも影響の少ないみょうばん、おはぐろ液、木酢酸液を使用する。

<媒染液の作り方と使用量>

・みょうばん(アルミ媒染)

焼きみょうばん(漬け物などに使用)は、溶けにくいので少量の湯で溶かしてから水を加える。

使用量:被染物の4~5%

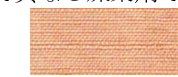
・おはぐろ液(鉄媒染)

1)同量の鉄釘・酢(穀物酢可)・水を用意する。
2)鉄釘を赤く焼き、酢と水を混ぜた液が半分になるまで煮だして10日間つけておく。その後こして、使用する。

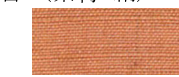
使用量:被染物の20~30%

※おはぐろ液の代わりに木酢酸液を染色店で購入可

落花生を使って異なる媒染剤で染めた場合(素材:絹)



無媒染



みょうばん



おはぐろ液

うなわけで、少なくとも23年度まで3回の講習が実施されるのは確実な情勢といえましょう。

近々のうちに、文科省の認可を経て、22年度の本学の

教免更新講習の要綱が発表されます。インターネットなどで本学の要綱にご注目下さるようお願い致します。

第2回(平成22年度)教員免許状更新講習の開催について

平成22年8月16日(月)~21日(土)まで、板橋キャンパス・狭山キャンパスにおいて、以下のとおり教員免許状更新講習を開催予定です。(文部科学省認定申請中)

内容の詳細については、文部科学省から認定を受けた後、3月下旬頃にホームページ等により広報します。

「教職についての省察並びに子どもの変化、教育政策の動向及び学校の内外における連携協力についての理解に関する事項」に関する講習

名称:教育の最新事情 [時間数:12時間]	開催地:板橋キャンパス, 狭山キャンパス
対象者:全教諭	定員:各50名

「教科指導、生徒指導その他教育の充実に係る事項」に関する講習

名称:情報基礎 [時間数:6時間]	開催地:板橋キャンパス
対象者:小・中・高 全科教諭	定員:10名

名称:総合学習もしくは家庭科教育での情報機器の利用 [時間数:6時間]	開催地:板橋キャンパス
対象者:総合学習や家庭科においてパソコン等の情報機器を利用して教育指導を行いたい教諭	定員:10名

名称:総合学習もしくは家庭科教育での情報機器の高度利用 [時間数:6時間]	開催地:板橋キャンパス
対象者:総合学習や家庭科においてパソコン等の情報機器を高度利用し、かつ管理も考えている教諭	定員:10名

名称:科学と人間生活 ~新指導要領を学ぶ~ [時間数:18時間]	開催地:板橋キャンパス
対象者:小学校教諭, 中・高 理科教諭	定員:20名

名称:家庭科の授業づくりと教材化の視点 [時間数:18時間]	開催地:板橋キャンパス
対象者:小・中・高・特別支援学校 家庭科教諭	定員:30名

名称:小学校教諭実践講座 [時間数:18時間]	開催地:板橋キャンパス
対象者:小学校教諭	定員:30名

名称:特別支援実践講座 [時間数:6時間]	開催地:狭山キャンパス
対象者:小学校教諭	定員:50名

名称:保育のリフレッシュとスキル・アップ講座 [時間数:18時間]	開催地:板橋キャンパス
対象者:幼稚園教諭	定員:30名

名称:外国語活動指導のための理論と実践 [時間数:18時間]	開催地:板橋キャンパス
対象者:小学校教諭	定員:30名

名称:最新の英語科教育法の理論と実践 [時間数:18時間]	開催地:狭山キャンパス
対象者:中・高 英語科教諭	定員:30名

名称:多様な素材と技法による美術表現の実践 [時間数:18時間]	開催地:板橋キャンパス
対象者:小・中・高 全科教諭	定員:15名

お知らせ

第18回(平成22年度)教員対象講習会

現職の教員を対象に「今、教育現場で活用できる内容」を提供し続けていきたいというコンセプトのもと実施しているこの講習会も今年で18回を数えることになりました。

今年度の開催は平成22年8月3日(火)から6日(金)の4日間を予定しています。6月には講座内容等詳細をお知らせいたします。

ご参加は本学卒業生に限らず広く告知しています。

アドバイスコナー

あなたの個性と創意工夫を授業に！

服飾美術科准教授 雲田直子

少し遡った話ですが、都立高校および都立教育研究所の先生方の授業実践報告を聴く機会がありました。ちょうど「高齢化への対応」が家庭科に位置づけられた頃で、“高齢者の被服”についてあえて被服領域ではなく、少子高齢化社会などの関連のなかで、内容を容易に理解し、高齢者の生活全体、考え方、意識が把握できる生活経営領域で追及しようとした試みです。まず[課題把握]として“少子高齢社会の実態を知ろう”、[課題の追求]として“高齢者とその生活構造を知ろう”、そして[課題解決]として“少子高齢社会を共に生きよう”というテーマに基づいた事例報告がそれぞれ為されました。指導計画で述べられた、聞く授業⇒進んで教材に働きかける授業へ、覚える授業⇒活動する授業へ、知識や技術を増やす授業⇒知識や技術を働かす授業へ、正解を答える授業⇒自分の考えを持ち、生き方を考える授業へという改善視点が説明された。そして先生方が細部にわたって、生徒と一緒に考え、動き、感動する内容へと導くその噛み砕いた授業展開へのプロセスを聴き、難しさをご苦労がひしひしと伝わる報告であった、というのが私の感想でした。

俗に下町と言われる環境の高校で、はじめは背を向けていた茶髪や金髪、学ランの男子生徒たちが「うちのばあちゃんはこちらだ」「うちのじいちゃんはこちらだ」と参加し始め、最終的にはクラス全員がまとまって発表へとこぎつける過程は現場の先生方の熱い思いを共感させられた貴重なひと時でした。

教育に携わる人なら誰もが知っている“教育は人なり”、この言葉を座右の銘または信条としていらっしゃる方も多いのではないかと思います。昨年“技術は人なり”“企業は人なり”など分野を問わず使われているようです。上記の体験は「この先生方だからできた授業だな」と、この時、この言葉を実感として思い起こさせられたのです。そして、教科を選ぶ言葉ではないと思いつつ、家庭科には特にそうだと思うはずにはいられません。家庭生活を営むために必要な衣食住や消費生活のことはもとより、少子高齢化に対応し男女が協力してつくる家庭・家族の在り方など、実に広範囲の内容に亘ります。また、そこから職業選択のヒントを与え、生徒の力を伸ばし、進路決定の大きな役割を果たす可能性もあると考えられます。従来の、テキストと指導要領中心の授業では、生徒の興味・関心を引き起こしつつ知識と技術を習得させることはなかなか難しいでしょう。生徒の生活の背景、環境を的確に読み取り、適切な教材を教員個々が工夫し魅力ある授業展開にすることが、家庭科の存在価値を高めてくれるものだと思います。また、そんな多岐な授業の中でこそ、生徒個人の資質は発見しやすいのではないかと考えますが、どうでしょうか。

話は変わりますが、「全国高等学校ファッションデザイン選手権大会」¹⁾ 別名「ファッション甲子園」というコンテストがあります。第2回開催のころ知りましたが、その後の情報はストップしていました。久しぶりに検索してみると第9回を迎えており、45都道府県234校1,847チームの参加、3,783点の応募数という結果に発展していました。同一学校の生徒2名1組でチームを結成し、顧問教員1名がつくということが条件にあります。このような企画に生徒を参加させることは、本来の授業とは少しはずれ、教員の指導の一環としても負担の増えることとは思いますが、才能・やる気のある生徒の個性を伸ばすチャンスの一つではないでしょうか。男子生徒の応募も増えているようです。また、ファッション関係の専門学校でも高校生対象のコンテストを実施し、一次を通過した作品制作には専門学校の学生がサポートするというようなものもあります²⁾。自己表現を自分の作品という形です。これからの時代、ますますプレゼンテーション能力は求められていくことでしょう。教員は影とはいえ力量が試されます。

今日、教員に向けられる目は厳しくなり（大・高・中・小を問わず）、教科の指導力のみならず、生徒への愛情、教員としての情熱、誇り、使命感など、維持していくことは並大抵のことではありませんが、常に自分磨きをこころがけ自信を持って魅力ある授業に取り組んで行っていたいただければと思います。

- 1) <http://www.f-koshien.com/index.html>
- 2) <http://www.fd-award.com/>



報告

松井正子名誉教授よりご寄付

松井先生には「緑育会の活動を支援する」目的で、これまでも平成18年度、19年度、20年度の3度にわたり、多額のご寄付を頂戴しております。今回はそれに引き続きのご寄付であり、先生のご厚意に厚く御礼申し上げます。

教育時流

教員養成教育推進室室長 青木 幸子教授

にとって当然の責務です。近年、大学評価基準にもアカデミック・スタンダードが求められ、到達目標とその評価基準を設定することで、質保証を図ろうとする試みが推進されています。高等教育機関への進学率が50%を超え、以前に比べ大学への入学条件と機会が緩和されたことが、卒業時の出口管理の厳しさに反映されているのかも知れません。

大学の質保証は当然のこととして、問題はその内容とバランスです。近年の政策には学校現場に即応する実務的内容を重視する姿勢に傾斜しているように見受けられます。大学での養成の場には、現場経験とその対応策を語る実務的内容ももちろん必要ですが、教員として状況に応じて対応できる能力を獲得するため生涯にわたって学び続けるプロフェッショナルとしての資質能力も必要です。自らの職能成長を図っていくことのできる素地を養うことがもっとも必要なことではないかと思われま。

それが「大学」で教員を養成することの意味ではないでしょうか。こうした資質能力が備わってこそ養成段階の責務が果たされるのであり、その素地が職能成長とともに開発され、磨かれ、状況に応じた対応能力として発揮されるように体系的な研修制度が準備されることが重要だと思われま。

現職の先生方はどのように考えられますか。

教員養成を担う多くの大学の関心の先には、「教員養成6年制」問題がある。その「問題」の中身と意識において、国公立大学と私立大学とでは温度差があるが、ここでは同じ中身について取り上げてみたい。

民主党政権に変わり、新政権への期待が大きい分だけ改革の一つひとつに注目が集まっています。施行されたばかりの「教員免許更新制」の廃止が決定し、教員養成6年制への今後の道筋こそが、焦眉の問題となっています。

一方、旧政権からの継続政策として、平成22年度の入学生から実施されようとしているのが、「教職実践演習」の導入であり、課程認定作業が進行中です。

この二つの政策が目指しているのは、教員の資質力量の向上です。教員養成6年制の政策実現への具体的内容が見えてこない段階で即断することは避けなければなりません。近年の政策から見えてくる教員像は、即戦力としての教員です。

免許更新制は、現職教員の知識・技量をリニューアルする契機となることをねらい、教職実践演習は、養成段階における教員としての質保証を求めています。資質力量に優れ、社会の尊敬と信頼を得る教員を輩出したいという目標は同じでも、その内容と方法は異なります。

教員養成において、質保証を求めることは行政サイドにとって、また質保証を担保して養成することは大学サイド



緑育会通信第7号、緑育会に関するご質問・ご意見・ご感想・ご要望等をお待ちしております。
下記の緑育会事務局（プロジェクト推進室）までお寄せ下さい。



緑育教育会（緑育会）ホームページをご覧ください。

- ①東京家政大学のホームページを開きます。
(<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/>)
- ②「卒業生の方」をクリックします。
- ③「緑育教育会（緑育会）」をクリックします。

または、
<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/ryokuiku/>
と直接アドレスを入力します。

緑育会事務局（東京家政大学 プロジェクト推進室）

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
TEL: 03(3961)0084 FAX: 03(3962)7135
E-mail: ryokuiku@tokyo-kasei.ac.jp

ご質問ご意見ご感想をお寄せ下さい。